

30 令和5年度 東京都立東大和南高等学校 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立東大和南学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
教務部主任兼務＝事務局長、生徒部主任、進路部主任、総務部主任 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭2名(教務部主任、進路部主任)、生徒部主任、総務部主任
保健主任 計7名
- (4) 協議委員の構成
教職大学院、東大和市教委、近隣中学校長、警察署職員、近隣施設機関、PTA会長、教育機関
計7名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～2回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年5月24日（水曜）内部委員7名、協議委員7名
書面にて開催
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営報告、学校経営計画、各分掌の取組（中間報告）、学校評価アンケート案の提出、アンケートによる意見交換
 - 第2回 令和4年11月29日（水曜）内部委員7名、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
令和4年度学校経営報告及び令和5年度学校経営計画
 - 第3回 令和5年3月6日（水曜）内部委員7名、協議委員7名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年11月29日（水曜）内部委員3名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討（学校評価アンケート案の検討）
 - 第2回 令和5年3月6日（水曜）内部委員3名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察（アンケート結果の分析と確認）

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学習指導」「生活指導」「進路指導」「環境整備」「特別活動・部活動」「学校生活全般」「新型コロナウイルス感染防止対策」の観点で実施する。
- (2) Formsによるアンケート調査の実施時期・対象・規模

・1月 全校生徒	対象：831人	回答：305人	回答率：36.7%
・1月 保護者全員	対象：831人	回答：508人	回答率：61.1%
・1月 教職員	対象：45人	回答：31人	回答率：68.9%
- (3) 主な評価項目
 - ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、新型コロナウイルス感染防止対策、オンライン授業などの評価項目を学校実態に合わせて適宜設定した。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・本校の学習環境や進路指導に関しては効果が実感され、評価が安定している。
 - ・講習、補習へのニーズが高い一方、開講数や生徒の参加実績は伴っていない。
 - ・オンライン授業について、一部家庭では端末や通新回路環境が十分に整っていない。
 - ・オンライン授業についての配信はありがたいと思う保護者と意味がないと考える教員側との乖離が見られた。配信内容の充実に関し課題がある。
 - ・家庭学習に取り組む生徒が少なく、進路情報の提供など保護者連絡も少ないため不満がある。
 - ・生活指導のルールの順守に関しては教員と保護者、生徒の認識にへだたりがある。

- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・補習、講習のニーズに対し生徒の参加が少ないようだ。補習、講習の内容を再考すべきではないか。
 - ・進路部の報告に関して、夏期講習の参加者数や自習室の参加者数について、延べ人数となっているが、実人数の報告もあると分かりやすい。
 - ・自習室・自習スペースの利用が約 10,000 名であることは感心する。今後も環境整備の充実を。
 - ・自宅学習期間中の対応（オンライン授業）は大変ありがたかったと回答する保護者が多い。」。
 - ・同時双方向型オンライン授業は保護者として大変ありがたいが、先生方の負担増になっていることが懸念される。
 - ・今後、通常の学校生活に戻り行事の全員参加や保護者参観等への期待が高まっている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた教科内の連携強化、校内研修の充実が必要であると認識できた。
 - ・チームスやメールでの情報発信が定着してきているが過剰な情報提供を望まれることがあるのが悩み。
 - ・勉強も行事の部活も頑張る校風の完全復活に期待する。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
 - ・通常授業でもオンライン授業でも教科内の連携や校内研修によって授業力の向上を目指す。
 - ・進路指導や学習活動の支援について、家庭への情報発信を増やし、連携して進路実績を向上させる。
 - ・進路情報や資格、検定試験情報等を保護者に伝える方法を検討してゆく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- (1) 学習活動
 - ・本校の授業が生徒の学力向上や進路実現につながっていると考えている生徒は学年が上がるごとに下がっているため、今後も一層の授業改善に努めていく。
- (2) 生活指導
 - ・生徒のほとんどが校則を守り、規則正しい生活を送っていると考えている。全くやらなくて良いとは思えないが、マナーや身だしなみ指導に対する共通理解が必要。
- (3) 進路活動
 - ・生徒、保護者、教職員はいずれも進路実現できる学習環境になっていると評価しているが、情報提供、相談活動については4割近い保護者が不十分と感じているため、情報発信の一層の工夫を進める。
- (4) 環境整備
 - ・生徒、保護者、教職員はいずれも環境整備への関心は高く、環境美化や衛生面での改善がもとめられているため、校内の点検や環境整備を進める。
- (5) 特別活動・部活動
 - ・学校生活の充実が進路自実現や納得のいく学校生活につながっていると考えている生徒、保護者が80%以上だが、学習との両立については70%を下回るため両立できる姿勢の育成が必要である。
- (6) 学校生活全般
 - ・生徒・保護者の80%以上が本校に入学して（させて）良かったと回答している。特に3学年の学校満足度が一番高い。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 7人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数 3人

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	4	0				

7 その他

- ・アンケート回収率の向上を図るため、Forms を利用したが、回答率が低い。次年度は送信方法や周知について工夫をする。
- ・様々な媒体を活用し学校公開や情報発信の機会を工夫し増やしていくことが必要。